



スゲ...

ト
キ...

●●●●●●●●●●



月光に照らされた直葉の身体。

それはまるで宝石のように輝かしく
滑らかな果実のようだった。

俺はその姿にただ見惚れることしか
できなかつた。

お兄ちゃん…好きッ！

大好きッ！

んっ

あんっ

あっ

キョ
ユ
ユ…

あ
あっ

グ
グ
グ…
ズ
ズ
ズ…

好きい…ッ！

好きッ！！

お兄ちゃん…

トク…!

おっ…





あゝあゝん

あゝあゝん!

ぎゅわん...

カ

とびるる

!

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ

!!

はあ……はあ……っ

あ、ああ……ッ
はあ、はあ……ッ

ぐんぐん

ぐんぐん





あああッ

んあああッ!!

んんんん、

んんんん...

んんんん...

ああッ!

んあ、はあッ!

はあ...

はあ...

ひあ、ああ...ッ!

あんッ、あああッ!

あ、

ぐわん

ぐわん
ずん



はんツ!

あ、ああツ!

んん、ひうツ!

ああツ!

あん、んんあツ!

ブルンッ

ブルンッ

ム

グンッ

グンッ

ム

ハッ

ハッ

グンッ

グンッ



ぎゅうがー

あんっ！

あ、あッ！

ひうらッ、ああッ！！

ああッ！

お兄ちゃんッ！！

スゲッ！

スゲうッ！

くッ、あくッ

んあ、くあッ！！

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あ、ああッ！

おにい……ちや……ッ

はめ……

ダメえッ！

はんッ

もう……ッ

あはッ

んんんあ！

あ、

めん、

ハッ
ン
ク
イ

く
ち
や

ハッ
ン
ク
イ



あゝ

あゝ

ああッ

あゝん

ああッ

ゆっ

ゆっ

あくッ!

スグ...ッ!

俺も...ッ

あぐうッ

ああッ!

じゅくちっ

ぐちゅ

パッ

ッ



アッ
コ
ッ
ッ
ッ

アッ
ッ
ッ
ッ

あ
ッ
ッ
ッ

あ
ッ
ッ
ッ

あ
ッ
ッ
ッ

ド
ッ
ッ
ッ
ッ

グ
ッ
ッ
ッ
ッ



ゴ
ゴ
ゴ

ゴ
ゴ
ゴ

あ

あ
あ

あ
あ

あ
あ

た
ら
ら



はあ、はあ……

はあ……っ

はあ……、はあ……

「ん」

「ん」

「ん」

お兄ちゃん…

あゝ

あゝ

あゝ





妹とシてしまった。

そんな罪悪感とは裏腹に、

俺のモノは尚もいきり立つ

たままだった。

直葉の熱く蕩けた視線はまっすぐ

俺に向けられている。

まだしたい…

そう語りかけるような視線が、俺

の理性を壊す。

俺はまた直葉を抱きしめた。

~ 3 ~



●●●●●●●

カアア

ド
#

フィルン

ド
#

ド
#

〃

お兄ちゃん……

○○○○○○○○○○

その二つの膨らみがあまりども扇情的で

俺は思わず息を飲んだ。

鼓動は激しくなり、息も速くなる。

気づけば俺は花に誘われる蜜蜂のように
ゆっくりとその頂きに顔を近づけていた。



んんツ!

んあ、はんツ!

んん

んん

んん

んん

んん

んん、んん、んん...

んん、んん、んん...

んん、んん、んん...

あ、あんツ
お兄ちや…ツ
んあツ！
はあツ

ゴッ
ん
ゴッ

ゴッ

はふッ

しゅッ

しゅッ

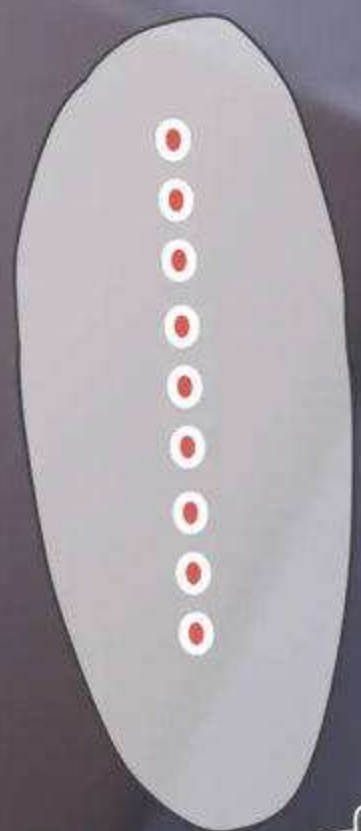
はあ


はあ

はあ

はあ

はあ





お互いに熱くなつた呼吸を
整えながら見つめ合つた。
言葉は無かつたが、直葉の
蕩けた視線が、彼女が今何
を求めているかを明確に示
していた。
それは俺も同じで、自然と
顔を近づけていった……



んむ…
あむッ

ちゅっ…



熱く甘い味わい。

でもこれは背徳の味。

超えてはならない一線を

超えてしまった罪悪感。

しかしもう止められない。

俺は無我夢中で直葉を求

めて、その唇を食った。

はむ

はむうツ

んんむツ、ちゅっ!

はむ...

ちゅっ
ちゅっ

んん...

んくっ、ちゅぶツ
んん、はむ、ちゅん

はちゅ...
はちゅ...

れろあ、ちゅぶ、はぶッ

はちゅ...
えう、ちゅぶ、う、

はちゅ...ッ!

は

はちゅ...
はちゅ...

ちゅく
ちゅ

は

はぶあッ!

あむ、ちゅくッ!

はちゅ

はちゅ

はちゆ、うむう、

んぷあ…ツ!

はあ
お兄ちゃん…ツ!

はあ

好き…、んちゆ、はちゆツ!

はあ

はあ


じゅ…

ロ…

好きい…ツ!!

んぷ、ちゆぱツ!

はあ



直葉の身体を強く抱き
しめながら唇を貪る。

もつと…もつと…

そうやってどれだけの

時間が過ぎたのか。

俺は名残惜しく思いな

がら、口を離した。



はあ、はあ……

はあ、はあ……
はあ……ッ



お兄ちゃん……



最後まで……

してくれる……？





直葉の気持ち。

直葉の覚悟。

それに応えるのに迷いなんて
要るだろうか…

大切な妹の想いを俺は無下には

できなかつた。

直葉を抱く。

そう決心し、俺は彼女の肩を抱き、

そっと押し倒した。

۸۸۸

۸۸۸

۸۸۸

۸۸۸